

地域限定の情報紙

白石東地区限定の情報紙「白石東まちづくり通信」を平成17年8月より発行しています。

本紙は、白石東地区まちづくり協議会が編集局になって地区内取材し、年3回発行する予定です。みなさんも身近な話題をどしどしお寄せ下さい。スタッフが取材に参ります！

～万ーに備えて～

とっさの場合、心臓マッサージできますか？ 瓦礫の下から怪我人を助け出せますか？



みんな、
真剣だね

気持ちの良い秋晴れに恵まれた9月24日(月 振替休日)午前中、白石南公園において町内会連合会(板垣俊夫会長)主催の第2回白石東地区防災訓練が行われました。

参加者の出足も上々、スタッフも含めると早朝から約270名の方々が参集しました。

参集後の煙道通過訓練を終え、町連会長等の開会のあいさつの後、参699加者は直ちに1班50～60人編成のA・B・C・D、4班に分かれ、白石消防署や地域の消防団員の指導の下、消火、救出・救護、水防訓練など6項目にわたり、班ごとのローテーションに従って全員が災害時の基本的な実技を体験しました。

また、最後には非常食の試食体験があり、参加者からは、「味は悪くないが、食べなければならぬ目には遭いたくないね・・・」との声も聞かれました。

今回の訓練を通じ、さらに防災に対する意識が深められたことと思われます。



テントの中は煙で何も見えません！



消火器も、実際に使ってみました



心臓マッサージはかなり力を込めて！



防災資機材を使って救護訓練



袋に砂をつめて土のうを作っています

子供たちも頑張っています

D I Gに参加しましょう！

まちづくり協議会の今年度の事業として、D I G(災害図上訓練)が予定されています。これは会議室で行う防災訓練として、住宅地図を広げみんなでワイワイガヤガヤ話し合いながら、防災や災害時の対応などについて、日頃から備えておくべきことの「気づき」を得ようというものです。12月から2月にかけて、各町内会単位で進めていきますので、是非ご参加ください。

ペットボトルロケット作り



青少年育成委員会では10月21日(日) 空きペットボトルを利用したのロケット作りを開催しました。

空きペットボトルを片手に、「おはようございます！」という元気な声で参加した子供たちは、各グループに分かれ、みんなで持ち寄ったペットボトルを使って育成委員の説明のもと、一斉にロケット作りに取り掛かりました。話を聞いたり、説明書を読みながら取り組んでる姿は真剣そのものです。

子供たちに聞いたところ、羽を本体につけることと、羽の中心とりが難しかったとの声が圧倒的でした。最後は出来上がったロケットに飾り付けし、名前を付けて完成。一生懸命作った、ロケットを見てどの子も満足顔です。

お昼は育成委員手作りのカレーが用意され、みんなで一緒にいただくにより美味しく、おかわりする子もたくさんいました。あっという間に、大なべ2つ分がなくなりました。



大人も子供も悪戦苦闘中の末、完成間近！

さて、打ち上げです。完成したロケットを持って大谷地小グラウンドへ移動。ロケットの噴射口から水を入れて発射台にセットし、空気を入れて発射します。最初のロケットが空を飛んだ瞬間、「わぁー」と大歓声があがりました。次々とロケットが空を飛んでいく中、子供たちは、大喜びでグラウンドを駆け回っていました。

今回の、ペットボトルロケット作りはリサイクルも兼ねて、子供たちに大好評だったようです。

取材担当：五十嵐



完成したロケットを発射台にセットして...
わぁ～、飛んだ～！！

ストップ! 交通事故!!



今、北海道では3年ぶりの交通事故死ワーストワンという事態を回避しようと、知事・道警本部長連名での緊急メッセージを発したり、街頭啓発に力を入れるなど、年末に向けて懸命に努力しています。札幌市内では、交通事故で亡くなる方のほとんどが歩行者、中でも高齢者が大半という状況です。

まちづくり協議会では、交通安全実践会、同母の会のメンバーが中心スタッフとなって、去る9月16日(日)に、平和通17丁目北にある柏会館で、「お年寄りのための交通安全教室」を開催いたしました。

柏、大谷地第一、両町内会の区域に在住のお年寄りを中心として46名の方が参加され、白石警察署交通第一課の川口宣博課長のユーモアいっぱいの講演、白石区交通安全運動推進委員会の高田由美子さん、毛内美恵子さんの交通安全に係る人形劇で、楽しみながら交通安全に関する知識を身につけました。

この教室は、来年度以降も白石東会館などを使い、場所を変えて継続していく予定です。



川口課長の話は楽しく、とてもためになりました

情報をお寄せ下さい！！

「近所におもしろいものがある」、「前から気になっていた施設がある」、「ユニークな活動をしている人を知っている」など、どんな話題でも結構です。皆さんからの地域の情報をお待ちしております。

取材スタッフ 岩井準一(町連)・浦川栄一(民児協)・五十嵐載子(育成)・長井和幸(体振)・松原秀孝(単町)・小笠原唯雄(単町)・大瀬戸一世(大谷地小P)

お問い合わせ 「白石東地区まちづくり協議会」

〒003-0026 札幌市白石区本通 18 丁目南 2-6 白石東まちづくりセンター内

TEL011-862-0813 FAX011-862-8694 (休館：土・日・祝日)

大谷地神社

神社シリーズ第二弾！！

白石東まちづくり通信第6号の白石神社に引き続き、神社シリーズ第二弾として大谷地神社についてお届けします！

南郷通を東進し、厚別川を越えた辺りにある大谷地神社は、白石村字大谷地の守護神として明治30年9月に設立され、昭和21年宗教法人大谷地神社となっています。

初代宮司は、豊平神社宮司 三橋吉四郎氏が任命され、その後現在に至るまで、豊平神社の宮司が大谷地神社の宮司を兼務しています。



大正時代の正面鳥居
奥にもうひとつ鳥居が見えます



お話を下さった殿山さん

このたび大谷地神社についてお話をしていただく方は、大谷地に入植され4代目にあたる殿山富夫さんです。殿山さんは、10年前より大谷地神社の責任総代長をされておられます。

大谷地神社の区域は当初、北都、柏山を含む大谷地全域（現在の本通16丁目と17丁目の市道を境に江別よりの地区）でしたが、大谷地の発展に伴い、昭和42年前後に地元住民が何度も協議をした結果、厚別川を境界として、札幌方面の住人は白石神社の氏子とし、江別方面の住人は従来どおり大谷地神社の氏子としたそう

です。ただし、今までどおり大谷地神社の氏子でいたい人はそのままでも構わず、現に今も厚別川より札幌方面の人で、大谷地神社の氏子でいる人はたくさんおられるとのことでした。

殿山さんが青年時代の大谷地神社の思い出は、秋に神社清掃で行った折、小高くなっている境内に座って前方を眺めると、黄金色に染まった稲穂が地平線のかなたまで続いていたことが懐かしく今も目に浮かぶとのことでした。また、当時境内の周囲には若い落葉松が群生しており、住んでいる人も、きのこを採る人も少なかったため、落葉きのこ採りに行くと、わずかな時間でたくさんのきのこが採れたことも、楽しかった記憶として残っているとのことでした。

大谷地神社の現在の氏子は約1万5千世帯、正月三が日に初詣をされる方は約6千人とのことでした。例大祭は9月23日で、今年も晴天の下、子供みこしが町内を巡行し、子供すもう、各種ショーと、盛大に行われたとのことでした。今年お祭りに来られた方は、来年もお越し下さい、また、お越しいただけなかった方は、来年は是非いらしてくださいとのことでした。



大正時代の拝殿



取材担当：浦川

元気なうちから介護予防を！

白石東老人クラブ 白石東友寿会・柏山会・茶廉慈倶楽部
連絡協議会 生き生きクラブ・白石東友愛会

白石東老人クラブ連絡協議会では、去る10月15日（月）、白石区介護予防センター本通の柴田由香さんを講師に迎え、講話（「楽しく介護予防」）と健康体操による「介護予防講座・教室」を開催いたしました。

併せて、区老連副会長の上村豊三郎さんから、老人クラブ会員増強のお話もありました。

参加者の皆さんからは「介護制度についてよく解り、そして家庭でもできる健康体操を教えてもらい大変良かった。」との声があがっていました。

老人クラブでは、これからも地域の高齢者の皆さんと共にこのような事業を行い、併せて会員増強運動を展開してまいりますので、是非ご加入くださるようお願いいたします。

（本稿は、茶廉慈倶楽部の中山勇会長に寄稿していただきました。）



グーッと、背伸びをしましょう！



大谷地小、平和通小にミニ児童会館オープン!!

名前もミニでも遊びはビッグ!

9月26日(火)大谷地小学校体育館において、「ミニ児童会館」のオープニングセレモニーが、地域の方や多くの来賓のご列席のもと行われました。式典の中ではテーブルカットやピエロによるアートバルーンショーなどが行われ、子供たちは身を乗り出して見入っていました。児童から「世界で一つだけの花」のすばらしい大合唱のお礼もありました。

現在約70名が利用し、ゲームや読書、折り紙など異学年交流をして楽しく遊んでいます。館長さんからは、「これからいろいろ催し物も予定していますので、ぜひ遊びに来てください!」とのこと。

また、11月からは平和通小学校にも同じくミニ児童会館がオープン。

地域にミニ児童会館が増え、子供たちの放課後が安心できるようになりました。



高学年の子も低学年の子も、子供たちはこんなに楽しく放課後を過ごしています



大谷地小での式典の様子



平和通小での式典の様子



ミニ児童会館とは、小学校の余裕教室等に開設する児童会館です。留守家庭児童、一般児童の区別なく、その学校に通うすべての児童が利用できます。

取材担当：大瀬戸



開校40周年を迎えて



東白石小学校は今年、開校40周年を迎えました。

これを記念して、9月28日(金)に「開校40周年記念式典・祝う会」を行いました。当日は、札幌市教育委員会や白石区各園・小学校長などの教育関係者はもちろん、お世話になっている多数の地域の皆様や旧職員、保護者の方々にもご臨席いただきました。

学校の始まり

本校は、昭和42年5月25日に仮称「第二本郷地区小学校」として建設が始まりました。その年の12月12日に校舎が落成し、本郷小学校から411名、大谷地小学校から125名の合わせて536名の児童による15学級体制でスタートしました。

さけ学習とともに

昭和54年、当時5年生の一人の女の子の呼びかけがきっかけとなって始められた「さけの飼育と学習」は、現在も引き継がれ東白石小学校の大きな財産となっています。

毎年11月ごろ、さけ科学館のお世話でさけ授精式が行われ、6,000個ほどの卵が、次の年の5月ごろまでかけて稚魚へと大切に育てられます。そして、豊平川への放流。その間、毎日のお世話はもちろん、育てる中から大切なことを学び、おもに総合的な学習の中で実を結んでいます。



昭和50年ごろには、児童数約900名23学級だったこの学校も、現在は約440名15学級規模となりましたが、子供たちのあふれるエネルギーは未来へと続きます。

地域の皆様が、いつも子供の成長を見守ってくださることに感謝しつつ文を閉じさせていただきます。

(本稿は、東白石小の福嶋崇教頭先生に寄稿していただきました。)



祝う会での子供たちの「表現」